

第6学年 外国語活動学習指導案

に組 男子 18 名 女子 19 名 計 37 名

指導者 HRT 高 味 淳

ALT Christopher Sneller

1 単 元 “Let's Talk!” 2 ～Great! おせち料理～

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、「Let's Talk!」1～もしも留学生がうちに来たら!」の活動を通して、相手と積極的にコミュニケーションを図りながら、自分で作ったものに思いを込めて伝え合う楽しさを味わうようになってきている。また、外国の言語や文化について、日本の言語や文化と比べたり、他教科等で学んだことを生かし調べたりして、もっと外国の様々なことについて学びたいと願うようになってきている。さらに、これまでに学んだ英語を生かしながら、もっと様々な英語に慣れ親しみながら、目的や相手のことを意識したコミュニケーションを継続したり、コミュニケーションの工夫をしたりしていきたくて願うようになってきている。

そこで、本単元では、留学生に日本の食事のマナーについて伝えたり、外国のマナーについて教えてもらったりする「Let's Talk!」1～もしも留学生がうちに来たら!」を発展させ、日本の代表的な料理の一部である「おせち料理」を取り上げ、外国の人に料理の内容や由来等を伝える活動を設定する。この活動を通して、日本や外国の言語や文化についてより興味をもたせるようにしたい。また、互いのコミュニケーション（内容や方法）を話し合うことで見直し、コミュニケーションを工夫することで、相手と適応することのよさに気付かせてきたい。

この学習は、日本の昔話を英語で劇にして他学年の子どもに伝わるように工夫して作る「We are good friends!」～届け! 1年生へのメッセージ～へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

子どもたちにとって、「おせち料理」は正月に食べる日本の代表的な料理として慣れ親しんでおり、親近感のある素材と考える。また、そのおせち料理の食材である「エビ」や「黒豆」、「栗きんとん」等は、その英語が分からなくてもジェスチャーを使ったり、「black beans」等の知っている英語に何とか置き換えたりすることができ、友達と協働しながら考えるよさに気付くやすいものとする。そのため、おせち料理の食材やその食材が使われている由来等を、日本にいる外国の留学生に紹介する活動を設定することは、学んだ英語をできるだけ多く使い、相手と積極的にコミュニケーションを図る態度を育成するのに適している。また、日本のおせち料理や同じような意味のある外国の料理の食材や、その食材の由来を英語で扱うことで、言葉の面白さや豊かさに気付いたり、日本や外国の料理のよさにも気付いたりすることにも適している。

このようなおせち料理を話題にして、それを紹介し合う際に必要な英語を表現する楽しさを味わったり、食材の由来に関する言語や文化への体験的な理解を深めたりするために、ゲーム活動やスキット（寸劇）作りを重視していきたい。そして、互いに働き合うことで、さらに積極的にコミュニケーションを図っていききたいという願いが連続・発展していくように活動を展開していきたい。

具体的にはまず、おせち料理に関するクイズを出し、知っていることや不思議に思っていること等を話し合い、教材に対する興味・関心を喚起させる。そして、子どもたちが目的意識・相手意識をもって活動に取り組めるよう、留学生におせち料理を紹介するというめあてを設定し、どのように外国の人に思いを伝えるか考えさせる。また、リズムチャンツや思いを伝え合うゲーム活動を通して、スキットに必要な英語に慣れ親しませていく。

次に、これまで学んだことを生かしながら、どのようにすれば自分の表現したいことが外国の人に伝わるか。」等をグループで話し合い、スキット作りに取り組ませる。その際、なかなか考えつけない友達には助言をする等、働きかけをさせる。そして、自分の役割をしっかりと認識し、最後

まで相手のことを聞き、思いを伝えるようにさせる。

さらに、自分たちで作った劇をグループ間で見せ合い、意見交換を行う。そして、意見交換で出された考えを基にスキットを作り直し、もう一度やってみせることで「友達と協働して楽しい活動ができた。」等、自信をもたせたり、活動への達成感・満足感を味わわせる。

このような学習を通して、おせち料理のよさを伝えるための内容や方法を考え（計画性の向上）、相手と働き合い（協調性の向上）、相手のことをよりよく理解しながら（責任感の高揚）、コミュニケーションを図る楽しさを味わうことができるものとする（自己肯定感の醸成）。

(3) 子どもの実態（対象者：6年に組児童 37 名 数値は延べ人数で、結果は主なもののみ表示）

① コミュニケーションへの関心・意欲・態度について

○ 外国の人や友達とコミュニケーションをするのは好きか。

<はい(30)>

・新鮮で楽しい(14) ・様々なことが知ることができて役立つ(11) ・英語が使えたと嬉しい(9)

<いいえ(7)>

・初めての人は緊張する(5) ・英語を話すのが苦手だ(2)

○ 友達がある英語を使えないとき、どうするか。

・ジェスチャー、アドバイス等して教える(27)

・調べたり、ALT に聞いたりして助ける(8)

・あきらめる、友達にまかせる(4)

② 外国語への慣れ親しみにについて

○ 日本のどんな文化を英語で教えられそうか。

・食事(32) ・スポーツ(26) ・洋服(22) ・芸術(7)

③ 言語や文化に関する気付きについて

○ 「おせち料理」を毎年食べているか。

・はい(29) ・時々(8) ・いいえ(0)

○ 「おせち料理」で知っている食材と使う理由（上位5）

食 材	使 う 理 由	知らない
えび (33)	・長生きできる (22)	10
黒豆 (22)	・まめに働く (8)	14
数の子(17)	・子孫繁栄 (7)	10
鯛 (14)	・めでたい (12)	2
昆布 (11)	・よろ「こぶ」 (8)	3

④ 学習・生活経験に関する内容について

ア もう一度やってみたい学習内容とその理由は何か。

活 動 内 容	主 な 理 由
ハロウィン・クリスマス(18)	工作が楽しい、異文化を知れる
スキット（寸劇）作り(12)	勉強になる、仲よくなれる、考えるのが楽しい
オリジナル時間割作り(9)	楽しい、自由に考えられる
ゲーム活動 (2)	面白い

イ 会話を続けるときに、大切なことは何か。

・つなぎ言葉を使う(8) ・考えてから伝える(6)
・発音に気を付ける(5) ・反応を見てる(3) ・ジェスチャーも使う(3) ・思いを聞き入れる(2)

ウ 今後どんな活動をしてみたいか。

・外国の人と話したり遊んだりする(17) ・英語を書く(2)
・違うゲーム(2) ・他の外国語を学ぶ(2)

本学級の子どもたちは、外国の人や友達との交流について大部分が好意的である。しかし、人との交流を苦手とする子どももいる。コミュニケーションを図ることのよさを十分に味わっていないことが原因の一つと捉える。また、困っている友達に対し、多くが助け合って解決しようとするが、人任せにしようとする子どもも見られる。協働するよさを味わっていないことが原因の一つと捉える。(①)

日本の文化についての英語に慣れ親しんでいる分野は食事であった。日常生活やこれまでの活動から出会う機会が多いと捉える。(②)

日本の「おせち料理」については小さいころから慣れ親しんでいるようであるが、使う食材とその理由に関しては、あまり知らないようである。日本の言語や文化に関する興味・関心があまり高くないのではないかと捉える。(③)

学習・生活経験に関する内容については、異文化について学んだり、友達と協力して活動したり、自分の考えを生かしたりできる内容を好んでいる。この期の子どもは、単に活動を楽しむ内容よりも学ぶことの楽しさ、達成感や満足感を味わうことのできる内容を好むと考える。

(④ーア) また、会話を続ける際に大切

なことをそれぞれが捉えているものの、多面的に気付くまでには至っていないと考える。(④ーイ)

さらに、今後の期待する活動については、多くの子どもが実際に話をしたいと考えている。英語を役立てたい、思いを伝えたいという姿勢が感じられる。(④ーウ)

(4) 指導上の留意点

ア 『「おせち料理」のよさを伝える計画を立てよう』では、自分の思いを友達と協働して伝えたいという興味・関心を高めるために（参加）、おせち料理の食材や使う理由について触れ、どのようにすれば外国の人に思いがよりよく伝わるか計画を立てさせる。また、劇を作る際、外国の人の役ができるよう「えび」「黒豆」等の英語にもゲーム活動を通して慣れ親しませていく。

イ『「おせち料理」のよさを伝えよう』では、相手に思いを伝えたり、相手の言うことや考えていることを理解したりするために（伝達）、どのようなコミュニケーションを図るべきか考えるよう、相互評価をし、コミュニケーションの工夫をさせる。

ウ『もう一度やってみよう』では、これまでの学習の成果を味わわせるために（多面）、振り返ったことを生かして、もう一度スキットに挑戦させる。また、適応することのよさに気付かせるために、これまでの自分と比較させながら、振り返りカードに学びを書かせ、感想交流をさせる。

3 目 標

- (1) 「学んだ英語を生かして相手に思いを伝えたい。」「相手の思いを知るためによく聞きたい。」という願いのもと、ALTやHRT、友達と協働しながら積極的にゲーム活動や劇作りに取り組む。
- (2) ALTやHRT、友達とのコミュニケーションを通して、外国や日本の正月の料理に興味をもったり、その国の料理を表す英語の面白さや豊かさに気付いたりする。
- (3) リズムチャンツやゲーム活動等を通して、おせち料理を表す英語の音声や表現に慣れ親しむ。
- (4) 目的や相手に応じたコミュニケーションを行うために、つなぎ言葉を使い、文脈を考えながらコミュニケーションを継続する。

4 指導計画（全5時間）

楽しみの深まり	単 元	過 程	学習課題と主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
・外国や日本の伝統的な料理を知ったり、協働して活動への見通しを立てたりする楽しさ ・おせち料理に関する英語を使ったゲーム活動をする楽しさ ・劇を友達と協働して作り、つながりを深める楽しさ ・コミュニケーションを見直している楽しさ ・互いの成長を実感する楽しさ	1	意 欲 を も つ	I 活動の計画を立てよう Let's Plan Skit. ・おせち料理について話し合う。 ・単元のめあてを話し合う。 ・活動の計画を立てる。 ・リズムチャンツをする。 ・キーワードゲームをする。	○ 外国の人に日本のおせち料理のよさを伝えるためにどのようなことに留意すればよいか考え（未来）、活動の計画を立てさせる。 ○ おせち料理を表す英語に友達の考えも取り入れながら（関連）慣れ親しませるために、互いに協働して楽しむゲームを取り入れる。 ○ スキットに必要な英語の表現を増やすために（関連）、ワークシートに考えられる表現を書き話し合わせる。 ○ コミュニケーションをよりよく工夫させるために（多面）、他のグループに劇を見せ、評価させる。 ○ 思いをしっかりと表現させるために（伝達）、評価を基に、改善点を話し合い、もう一度スキットを作り、紹介させる。 ○ 適応することのよさに気付かせるために（吟味）、これまでの自分と比較させ感想を発表させたり、活動について称賛したりする。
	2	つ か む	II 「おせち料理」のよさを伝えよう ・リズムチャンツをする。 ・チェンゲームをする。 ・食材やその由来を表す英語を知っている英語やジェスチャーに置き換える。 ・スキットに使う料理を画用紙に表す。	
	3	機 構 を あ げ る	Let's Make and Do Skits. ・各グループで役割を決める。 ・グループで台詞等を作成する。 ・グループで練習する。	
	4 （本時）	動 画 を 見 る	・スキットの練習をする。 ・他グループと劇を紹介し合う。 ・相互評価をする。 ・さらによりよいスキットを考える。 ・これまでの活動を振り返る。	
	5	生 か す	III もう一度やってみよう Let's Do Skit again. ・作った劇を修正したり、新たな表現を付け加えたりする。 ・もう一度スキットを紹介する。 ・単元を通しての学びを振り返る。	

5 本 時 (4/5)

(1) 目 標

おせち料理を表す英語に慣れ親しみながら、積極的にスキット作りに取り組む。また、つなぎ言葉を活用する等、相手と協働しながらコミュニケーションを工夫する。

(2) 本時の展開に当たって

アメリカの留学生を自宅に招き、おせち料理を紹介するために (未来)、どのようなコミュニケーションの工夫をすればよいか考えさせ、友達と協働してスキットを作らせる。その際、日本とアメリカとの文化の違いがあった場合 (関連)、どのようにすれば互いの違いを理解していける考えさせ、より相手や状況に応じたコミュニケーションを工夫させるようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	主 な 語 彙 や 表 現	時 間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
意 欲 を も つ	1 Communication Time 2 Meeting today's target Let's Make Skits. ・ アメリカの友達におせち料理のよさを伝えながら、食事をしよう!	A : Hello!! B : How are you? A : I'm tired, and you? C : Me too, and you? D : No, I'm sleepy.	3	○ 状況に応じたコミュニケーションの必要性に気付かせるために (未来), 「アメリカの友達におせち料理のよさを伝えるためにはどのようにすればよいか」と問い、活動の内容について考えさせる。
	4 Practice 5 Rhythm chants 6 Word Chain Game	Excuse me. Pardon? Hmm... Great. One more time. shrimp, kelp, chopsticks Why? delicious	8	○ スキットに必要なつなぎ言葉等に慣れ親しませるために (参加), 自分たちのジェスチャー等をつけてALTの後に続けて発話させる。 ○ スキットに必要な英語の表現を膨らませるために (吟味), 友達と協働して食材のよさを伝え合う活動を取り入れる。
	例) 提示カード: 【shrimp】 「えび」のよさを伝える英単語, もしくは英語の表現を相手に伝える。ジェスチャーでもよい。 long long life, delicious...			
挑 戦 す る ・ 広 げ る	7 Making Skits 	【話し合い例】 C1: おせちに「えび」が入っている理由がまだ伝わっていないよ。 C2: "One more time." を使おう。 C3: "please" を入れた方が丁寧だよ。 C2: "O.K. One more time, please."	20	○ 自分たちで作ったスキットが、聞き手にどのように伝わるか実感させるために (吟味), アメリカ人と日本人の役に分けて練習させ、言いたいことが共有されたか話し合い、意見交換をさせる。 ○ 発表を見る側も聞く態度を高めさせるために (吟味), 発表者の内容を観点に沿って評価させる。
	8 Presentation I ・ 英語の使用量 ・ 表情 ・ 声量 等	Have your chopstick! O.K.! What's this? "dashimaki"	5	○ 発表したスキットをよりよくするために (多面), これまでのスキットと比較させ、相互評価を基に見直し、改善を図らせる。
	9 Interaction 	C1: 黙っていると何を考えているかわからないよね。 C2: "Hmm..." だけでも使えば悩んでいるんだと伝わるよ。	5	○ 改善したスキットが見る側によりよく伝わるか実感させるために (伝達) もう一度、発表させる。
生 か す	10 Presentation II 11 Reflection Time 	Please, have your chopstick! O.K.! What's this? "dashimaki, delicious!" たくさん英語を使って劇が作れて楽しかったよ。	9	○ 自他の成長を味わわせるために, 「スキットを作ってどんなよさを学んだり考えたりしたか」と問い、感想交流をし、活動の称賛をする。